



避難セットチェックリスト

- ☐ ケージ、キャリーバッグ
- ☐ ペットフードと水（5日分以上）
- ☐ 常備薬、療法食
- ☐ ペットの写真・飼い主と一緒にの写真
- ☐ トイレ用品（トイレ用シート、猫砂、新聞紙等）
- ☐ 首輪、リード、ハーネス
- ☐ タオル
- ☐ 健康記録
- ☐ 食器
- ☐ ブラシ
- ☐ ガムテープ、油性ペン



ペットの健康記録

※この様式は一例です。



【ペットの情報】

名前： 性別： オス・メス / 不妊去勢 済・未
 種類： 犬・猫・その他（ ） 体重： 大・中・小（約 kg）
 犬種： 毛色： 生年月日： （ 歳）
 マイクロチップ： 未・済（ 番号 ）
 鑑札番号（犬）：
 ワクチン接種： 未・済（ 種類 ） 最近の接種日
 既往症（持病、飲んでる薬、アレルギーなど）：

性格・特徴：

その他：

【飼い主の情報】

氏名：
 電話：自宅 携帯
 住所：
 メール：① ②
 非常時の連絡先： 電話
 かかりつけの動物病院： 電話

携帯電話やスマートフォンを活用しよう！

ペットの写真（顔のアップや全身、飼い主と一緒に写っているもの）や健康記録などを手元の端末に保存しておきましょう。犬の場合は鑑札や注射済票も写真に納めておく便利です。



ペットといっしょに備えておこう！

防災ハンドブック



災害時のペットとの同行避難について

同行避難とは、避難所までの避難行動（行為）のことで、避難所でペットと人が同じスペースで過ごすことなどの【同伴避難】を指すものではありません。

災害時、あなたとあなたの大切なペットを守るために、日ごろからの備えと対策を考えましょう。ペットが理由で避難しないことは、自分の安全を脅かすことにつながりますので、ペットと一緒に同行避難をしましょう。

日頃の備えと心がけ

各項目をチェック☑してみよう！

安全確保

- ペットを連れての避難経路を確認しておく。
- 災害時に一時的に預けられる場所を確保しておく。
- 首輪や鎖の状態を点検する。

しつけと健康管理

- ケージやキャリーバッグに慣れさせておく。
- 決められた場所でトイレができるようにしておく。
- ペットの身体のどこでも触れるようにしておく。
- 無駄吠えをしない、「待て」「伏せ」など基本的な号令に従うようしつける。
- 各種ワクチン接種やノミ・ダニの駆除をしておく。
- 服薬の状況等を随時記録しておく。
- 定期的なトリミング・シャンプー・ブラッシング等で清潔さを保つ。

身元表示と防災用品の準備

- 飼い主の連絡先を書いた迷子札や、マイクロチップを装着する。
- 犬の場合は、鑑札や狂犬病予防注射済票を首輪に装着する。
- 日頃から物資を備蓄し、すぐに持ち出せる場所にペットの避難セットを用意しておく。
(裏面チェックリスト参照)



※犬は狂犬病予防法により装着が義務付けられています。

特定犬(①～③に該当する犬)や危険な動物(※)は同行避難できません。事前に預け先を検討しましょう。

①秋田犬、紀州犬、土佐犬、ジャーマン・シェパード、ドーベルマン、グレートデン、セントバーナード、アメリカン・ピット・ブル・テリア

②上記8犬種以外で体高(地上から肩の高さ)60cm以上かつ体長(肩から尾の付け根)70cm以上の犬

③その他、人に危害を加えるおそれがあると認め知事が指定した犬

※飼育しているペットが同行避難できない「危険な動物」かどうかは、防災安全課までお問い合わせください。

災害が起きたら…

同行避難の判断

- ① 市の災害対策本部や消防・警察などからの避難指示、家屋倒壊・火災延焼・危険物の爆発や流出などのおそれがある場合

ペットを連れて避難所等に避難します(同行避難)

- ② ①のような差し迫った危険がなく、ペットの安全と逃げ出さない措置が確保でき、飼い主が定期的な世話に通うことができる場合
(※堀等で囲まれた敷地内でも、放し飼いのままの避難はしないでください)

ペットは自宅で待機させましょう

避難所への移動とペット飼育場所の設営・飼育

- ① ケージやキャリーバッグに入れる、またはリードやハーネスをつけ、持出用の避難セットを持って移動します。
- ② 避難所に入る際は、**ペット所有者登録**をします。
- ③ 飼い主は各避難所の運営担当者と協力して**飼育場所の設営**にあたります。
- ④ ペットは**飼い主とは別の決められた場所で飼育**し、ケージやキャリーバッグの中で生活します。ケージやキャリーバッグは飼い主が必ず準備して下さい。
(例外：補助犬【盲導犬・聴導犬・介助犬】については、飼い主と一緒に生活します)
- ⑤ ペットの飼育や飼育場所の管理は、各避難所のルールに従い、**飼い主が協力して行います。**



ペットとはぐれてしまったら…

発災時にもしもペットとはぐれてしまっても、まずは**飼い主自身の安全確保を最優先**してください。その後で保健所や警察への連絡、迷子ポスターの作成、避難所の掲示板などを活用して探しましょう。

※迷子札やマイクロチップがあれば、より見つかりやすくなります。